はなまき通検定

往来物（おうらいもの）

一般社団法人花巻観光協会

＝ は　じ　め　に ＝

『どなたも　どうか　お入りください。

決して　ご遠慮はありません。』

この往来物（テキスト）は、花巻市民の方々に花巻の歴史・文化・自然・先人などに関する知識を深め、花巻の良さを再認識していただくとともに、市民皆さんで観光客をおもてなしできるようにするために実施する「はなまき通検定」の参考書として作成したものである。

内容は、花巻に関する各分野の専門家に是非に知っておいた方がいいと思われる事柄を拾い集めていただいたものであるが、花巻の全てには、未完成の域を出ていないことを付け加えておく。

そのため、「なん～だ、こんなこと知ってる」から「エッ、これが花巻に？」というようなことがあるかも知れない。また、「なんか足りないのでは？」というところもあると思う。

皆さんに、楽しみながら学習する「楽習」気分で、花巻の知識度を高めていただきたいものである。

そして、気軽にこの検定に参加いただきたい。

平成２６年１２月１日
令和２年７月１６日改訂
令和２年１０月８日改訂
令和２年１２月２日改訂
はなまき通検定「往来物」　発行元／花観堂

『だんなぁ、だんなぁ』　『おおぃ、おおぃ、ここだぞ、早く来ぃ。』

各個人の年表の年齢は、「満年齢」で表しているが、逝去時には満年齢に達していない場合は空欄となっている。

＝ 目　次 ＝

＜歴史を感じる文化財＞
神社仏閣　・・・・・・・・・・・　１
民俗芸能　・・・・・・・・・・・　３
祭　・・・・・・・・・・・　４
国指定文化財（国宝）　・・・・・・・・　６

神社仏閣

○鳥谷崎神社

鳥谷崎神社の創建は、その年代は定かではないが、前九年の役康平年中（1060）源頼朝・義家父子によって、現在の吹張町の地に勧請したと伝えられる八幡神社を、正和２年（1313）稗貫氏が鳥谷崎城に奉還した。更に天文５年（1536）城内にそれぞれ鎮座せる鳥谷崎神社・稲荷神社の三社を合祀し、社号を「鳥谷崎座三柱神社」と改称した。その後、当地方を取り巻く状況は、時の流れとともに移り変わってきたが、現在の神社の姿は、明治の末年になり更に町内の三社を合祀し六祭社とし、社名を「鳥谷崎神社」に改称したことによります。

神社境内には、宮沢賢治歌碑と高村光太郎詩碑が建立されている。

◆藍革威胴丸（あいかわおどしどうまる）１領　兜、大袖、小具足付（南部義政公甲冑）

【県指定有形文化財・工芸品】

胴丸は中世の鎧の形式の一つであり、室町時代に全盛期を迎えた。この資料は、南部家１４代義政が着用したと伝えられるもので、江戸時代初期に修理復元されており室町時代当時の面影をよく留めています。

◆円城寺門（えんじょうじもん）【市指定有形文化財・建造物】

この門は、慶長１９年（1614）の花巻城築城整備にあたり、和賀氏の本城であった飛勢城（二子城）大手門の部材を主として建築されたもので、三の丸搦手の円城寺坂に建てられたため円城寺門と呼ばれた。戦後、現在地・鳥谷崎神社に移転復元され、花巻城唯一の貴重な遺構として保存されています。

◆南部利剛夫人乗物（なんぶとしひさふじんのりもの・駕籠）１乗【市指定有形文化財・工芸品】

南部家４０代利剛は、徳川斉昭の三女を夫人としているが、この駕籠はその輿入れの際に使用された。総黒漆に金蒔絵で徳川家の家紋が入り、透戸付きで内部に彩色絵飾りがある。南部家から鳥谷崎神社に寄進されたもので、当時の美術工芸品として貴重なものであります。

○熊野神社（通称三熊野神社）

東和町北成島の熊野神社は、国指定有形文化財である毘沙門堂と同じ境内にあります。この神社は、征夷大将軍坂上田村麻呂がエミシ征伐の時、この地で紀伊の熊野三山に戦勝祈願をしたところ難なく平定することができたことから、熊野の三神を勧請して熊野神社を建立したと伝えられています。康平５年（1062）には源義家が安倍貞任を追撃してここに立ち寄った時、熊野神社に鏑矢を納めて戦勝祈願をしたところ、安倍氏を破り奥羽を平定する事ができたとも伝えられています。

中世には、和賀領主より社領７０石を寄進され、元和４年（1618）に南部利直公より社領２３石をいただいています。岩手県内では数少ない、中世に成立した建築様式をもつ建造物であることから、昭和５４年に県指定文化財になっています。

境内では、５月と９月に「泣き相撲」が開催されます。９月の神社例大祭に開催される「十二番角力式泣き相撲」は市指定無形民俗文化財となっています。（詳細別項）

○毘沙門堂

東和町北成島にある毘沙門堂は、宝形造で鉄板葺のやや大型の三間堂で、廻り縁と向拝がついています。堂内にあった木造毘沙門天立像は、近くに建設された耐火構造の保存施設に安置されています。毘沙門堂は延宝元年（1673）に修理をしていますが、各部の仕上げや建築手法などから、室町

時代後期に建立されたものと言われています。県内に残る数少ない中世建造物であり、平成２年に国指定重要有形文化財となっています。

○毘沙門天立像

毘沙門天立像は、平安時代に朝廷が東北地方を平定したときに、四天王の一つである北方世界の守護神である毘沙門天（別名：多聞天）を作って奉納したものといわれています。岩手県内で最も大きな仏像の一つで、全体の高さは４７３cm であります。

毘沙門天立像の体は１本の欅の木を彫り込んだ「一木造」で、像全体に鮮やかな彩色がほどこされています。毘沙門天の足下では、地天女が両手で支えており、毘沙門天立像１体と二鬼坐像（藍婆と毘藍婆）を一組として、国指定重要有形文化財となっています。

伝吉祥天立像は、高さ１７５cm の一木造りで、豊かな体つき、右足を軽く曲げ、腰をひねった姿、衣の襞の表現などの特徴から、平安時代初期に作られたと考えられている。県内にある一木造の仏像の中で最も優れた美しい仏像といわれており、やはり国指定重要文化財となっている。

○丹内山神社

東和町谷内の丹内山神社は、創建時期は不明だが、平泉藤原氏の時代に社堂や仏像、土地などが寄進されたと伝えられています。そのことを裏付けるように丹内山神社の裏山からは、平泉藤原氏時代のものと考えられる経塚から、白磁の影青四耳壺や古鏡、中国古銭などが出土しており、この時代を知る貴重な資料として経塚及び出土品は県指定文化財となっています。

丹内山神社本殿は、文化７年（1810）に建立され、棟札により棟梁の名前や年代なども確認できることから、平成２年に県指定文化財となっている。この時に建物内部にある「厨子」も一緒に指定されており、これは調度品・書画・経典などを納めるためのもの。本殿の特長は、千葉八重郎の作と言われている外壁・脇障子・正面格子扉などに「竹林の七賢人」「菅原道真」「紫式部」といった彫刻が施され、大変美しい建造物となっています。

そのほかにも丹内山神社所縁の文化財は多く、県指定文化財の木造十一面観音立像、市指定文化財の一ノ鳥居、不動明王立像、擬宝珠などのほか、付属する社風神楽、雅楽なども市指定となっています。また、根元周りが１２ｍもあるじい杉の根は、大正２年に火災に遭って根元だけになってしまったが、神社のシンボルとして市の天然記念物に指定されています。

○清水寺

花巻市太田の清水寺は大同２年（807）に坂上田村麻呂が勧請したと伝えられていて、京都の清水寺、兵庫の清水寺とともに日本三清水として知られた古刹。奥羽（当国）三十三観音札所の第一番札所としても知られています。

江戸時代までは本山修験宗に属し、京都聖護院の末寺となっていたが、明治の神仏分離令によって修験宗寺院は廃寺に追い込まれたため、清水寺は天台寺門宗に改宗して近江の三井寺に属し、現在に至っています。

本堂には、像高８cm、鋳銅製の薬師如来懸仏が伝わっており、鏡板は欠失しているが、作風から南北朝から室町時代初期にかけてのものと思われ、市指定文化財となっている。

境内にある昭和２年（1927）に建立された山門は、壮麗であり、二階には三十三観音の写し霊場があり、一階には阿形・吽形の仁王像が祀られている。また、千体薬師堂には、地区民から奉納された薬師如来など 1001 体を安置している。

○円万寺観音山

花巻市円万寺にある円万寺観音山には、円万寺観音堂と八坂神社が並んで建ち、かつて神仏混淆が

盛んであった時代の姿を彷彿させる。観音山の麓には、古代から中世にかけて奥州の南北を結ぶ古街道が通っていたといわれ、山頂には空堀や土塁が残っていて、街道を守るための館（山城）が築かれていたことがわかる。

境内には市内で最も古い年号をもつ南北朝時代の正慶元年（1332）の石碑や、異様な形に見える祖母杉などが見られる。祖母杉は、大同３年（808）に坂上田村麻呂が「戦いの勝利の後、観音様をお迎えしよう」といってそのしるしに植えたといわれる杉の木で、天保年間の火災により主幹部分が焼失し、現在も樹皮だけの幹で、枝の重さをささえながら生き続けている。

この他、境内の一角には、戦時中に花巻に疎開していた多田等観のために村人が建てた「一燈庵」という草庵がある。

また、円万寺観音堂には「忍び駒」という民芸品が伝わっている。稲藁を材料にした素朴な馬人形で、縁結びや子孫繁栄、五穀豊穣などの祈願として、人目を忍んで藁馬を供え、その成就後には持ち帰って美しく色布、鈴などで飾り、お礼参りをしたという。昭和４１年には、郵政省の記念切手としても採用され、それを記念して境内に石碑が建立されている。

館跡があったほか、観音堂や八坂神社が並んで建っているこの地からは、眼下に散居風景が一望できるほか、遠くには早池峰山の雄姿を見ることもでき「花巻八景」にも選ばれている。

歴史を感じる文化財

民俗芸能

○早池峰神楽

早池峰神楽は、花巻市大迫町内川目地区に伝承されている神楽で、岳集落に伝わる岳神楽と、大償集落に伝わる大償神楽の二つの神楽座の総称。神楽の由来は定かではないが、早池峰山を修験道場としていた山伏たちによって代々舞い継がれてきたといわれ、山伏神楽とも呼ばれている。岳地区にある早池峰神社には「文禄四年(1595)」銘の獅子頭が残されており、少なくとも４００年以上前には伝えられていたことがわかる。舞いの至るところに「能」大成以前の古い民間芸能の要素を残していることから、中世の香りを伝える希有な神楽として、昭和５１年に国の重要無形民俗文化財第１号に指定され、平成２１年９月にはユネスコ無形文化遺産に登録された。

両神楽の関係・相違については多くの意見があるが、一般的に岳神楽は五拍子でテンポが速く「勇壮」、大償神楽は七拍子でテンポがゆるやかなので「優雅」と評される。また、大償神楽の山の神面が口を開けた「阿」形であるのに対し、岳神楽の面は口を閉じた「吽」形であることから、「阿吽」の神楽とか、兄弟神楽とか言われることもある。

戦前までは、農閑期の 11 月ごろから翌年２月頃まで、権現様と呼ばれる獅子頭を奉持して、稗貫郡や和賀郡、紫波郡などを廻村巡業していた。「通り神楽」とか「廻り神楽」とか呼ばれたこの巡業形態も、戦後には途絶えてしまい、現在では神社の祭礼や、歳祝・新築祝い・結婚式等の祝事で招かれたり、各種イベント等に呼ばれて公演することが多くなった。

○鹿踊（鹿子踊、獅子踊、獅子躍）

岩手県内には二つの系統の鹿踊が伝わっている。一つは県南地方の旧仙台藩領を中心に伝わってい

る、腰につけた太鼓をたたきながら踊る「太鼓踊系鹿踊」といわれるもの。もう一つは、遠野地方を南限として旧盛岡藩領に伝わる、太鼓をつけずに衣装の幕を持って踊る「幕踊系鹿踊（別名・カンナガラ鹿踊）」である。衣装等は異なっているが、どちらも一人立ちで八人一組となるのが基本。市内には両系統の鹿踊が伝わっており、仙台藩と境を接していた地域の特徴を表している。

太鼓踊系鹿踊には、行山流・金津流・春日流などさまざまな流派がある。この中でも、春日流は東和地区で始まったといわれ、花巻地方に伝わる太鼓踊系の鹿踊の主流を占めている。東和町の春日流落合鹿踊は県指定文化財、その流れを汲む上ノ山鹿踊、湯本鹿踊、鍋倉鹿踊、八幡鹿踊、八日市鹿踊の５団体は市指定文化財となっている。

幕踊系鹿踊は、主に大迫町や東和町に伝わっており、とくに大迫町外川目に伝わる竪沢鹿踊は、踊りの中に念仏踊風の形式が取り入れられていて、一種独特の雰囲気を醸し出している。

〇倉沢人形歌舞伎（県指定無形民俗文化財）

指定年月日　平成７年９月１日、保持団体名＝倉沢人形歌舞伎保存会

明治２０年（１８８７）、倉沢の福蔵寺で旧江刺郡福岡村（現北上市）の水押人形芝居が公演を行いました。これを見た倉沢の菅野常次郎は、水押人形芝居の座員となった。その後、人形などの道具類を全て自作して、明治２７年（１８９４）から始められたのが倉沢人形歌舞伎である。水押人形芝居を初め、多くの人形芝居が昭和初期に衰退・消滅する中、倉沢人形歌舞伎は活動を継続しており、常次郎の製作した人形類も多く現役として使用されている。

歴史を感じる文化財

祭

〇蘇民祭（胡四王蘇民祭、五大尊蘇民祭 - 市指定無形民俗文化財）

蘇民祭は、蘇民将来の説話にもとづき、人々の無病息災や五穀豊穣を祈って行われる岩手県を中心とする伝統行事。有名な奥州市の黒石寺蘇民祭をはじめとして、１月から３月まで県内７か所で開催されるが、市内では、花巻市矢沢の胡四王神社、石鳥谷町五大堂の五大尊、大迫町内川目の早池峰神社の３か所で行われている。無病息災、五穀豊穣を祈願した後、裸の男たちが勇猛果敢に一つの蘇民袋をめぐって奪い合いを繰り広げる「蘇民袋争奪戦」が祭りのハイライトとなっている。

〇三大蘇民祭

■胡四王蘇民祭（市指定無形民俗文化財）指定年月日　平成７年 11 月 22 日

蘇民祭は、新年に寺社で五穀豊穣・無病息災を願って行われる祭りであり、岩手県内陸部の稗貫郡から南に伝えられており、多くは、親札と呼ばれるお札と「コマ木」と呼ばれる十二支や「蘇民将来」などの文字が書かれた小さな札が入った蘇民袋を、裸の男性たちが争奪するという祭りである。この胡四王蘇民祭は、原因不明の難病が流行したために、疫病退散・家内安全・五穀豊穣・村内安全を祈願して、慶応元年（1865）に始められたと伝えられている。

■光勝寺五大尊蘇民祭（市指定無形民俗文化財）指定年月日　平成 13 年 1 月 15 日

光勝寺は、奥州南部氏の始祖・南部光行に由来する牛馬守護信仰の寺として知られ、かつては新年に多数の騎馬が押し寄せて鞭で堂を叩く「堂叩き」が行われたと言われている。護摩祈祷を受けた「護摩餅」の配付は、明治以降も続けられたが、参詣者の増加による争奪が激しくなったため、明治２７年（1894）から蘇民袋を祭りの中心とする形に改められた。袋の中には五大尊の名と跳

ね馬の焼き印が入る「駒札」と五大尊の親札が納められている。

祭日　１月下旬（旧暦正月７日）

■早池峰神社蘇民祭

蘇民袋の中には十二支の焼き印のある３６５個の駒札。男たちが押し合いながら参道を下り、激しい袋の争奪戦が繰り広げられる。最後に袋の口を押えている人に駒が与えられる。

祭日　３月１７日

○泣き相撲（十二番角力式 - 市指定無形民俗文化財）指定年月日　平成５年４月 15 日

東和町北成島にある熊野神社の境内で、５月と９月に開催される。坂上田村麻呂が部下に相撲を取らせたのが起源と伝えられている。現在は、数え２歳の幼児の成長を祈願する祭りであり、泣いた方が負けというユニークな相撲となっている。

毎年９月の神社例大祭に開催される「十二番角力式泣き相撲」は、成島地区に所縁のある長男１２名しか出場できない儀式的な行事で、市指定文化財となっている。一方、昭和６３年からゴールデンウィークに開催されている「全国泣き相撲大会」は、性別や出身地に関係なく参加できるため、毎年全国各地から 1000 名を超える豆力士で大いに賑わっている。

○あんどんまつり

花巻市大迫町に伝わる「あんどんまつり」は、江戸時代の天明年間（1781～88）、天保年間（1830～43）と相次いだ大飢饉で餓死した人々を供養するために始まった盆行事と言われている。当時は、盆の諸行事を一つにまとめた「盆祭り」だったと推察されるが、明治時代に大八車に大きな「あんどん」を乗せて運行するようになってからは、現在のような山車中心の祭りになったと思われる。

当初は、四角い形のあんどんを乗せて、四隅を棒や紐でゆれを押さえながら町内を練り歩き、あんどんの絵柄は盆の３日間毎日別の出し物を描いて出していたという。昭和のころになると、青森のねぶた祭りなどの影響により形が立体的になり、制作が難しくなったことから、８月１４日と１６日の２日間になっている。ただ、この２日間は今でも出し物を代えて運行をしている。

○花巻まつり

４００年以上前から連綿と続けられている、花巻を代表する秋まつり。その始まりは、花巻城三の丸下にあった観音寺の祭礼であったといわれているが、花巻城代として花巻の町づくりに尽力した北松斎公の遺徳をしのぶ祭りとしての性格が強くなっている。

優雅な「花巻ばやし」の音色の中、絢爛豪華な風流山車、150 基にもおよぶ勇壮な神輿、岩手を代表する郷土芸能の鹿踊や権現舞などが披露される。花巻ばやしは京都祇園囃子の流れを汲むもので、南部囃子、日高囃子とともに県内における祭囃子の代表的様式とされており、市指定文化財となっている。伝承の起源については不明であるが江戸時代の中頃には行われていたと考えられており、横笛、三味線による旋律と、交互に打たれる大太鼓、小太鼓の調子が「行進囃子」「停車囃子（裏囃子）」と呼ばれる二つの囃子を奏で、花巻まつりの風流山車を華麗に彩っている。

○土沢まつり（市指定無形民俗文化財）指定年月日平成１４年１１月２１日

正徳元年（1711）に鏑八幡神社が再建された時に、神輿を出して祝ったことが起源と伝えられている祭り。山車の製作は明治３０年代に始まったとされ、山車の運行と共に演奏されるお囃子「土沢ばやし」は曲が伴うもので、岩手県内の祭囃子としては、花巻まつりの「花巻ばやし」と同じ県南型。このお囃子に含まれる、太鼓のバチを交差させる・ひねるといった所作は、江戸時代から続く祭囃子という性格を示すと考えられている。

約３００年の歴史を誇る祭りで、現在は豪華絢爛な山車を筆頭に、鏑八幡神社の神輿渡御、神楽権

現舞、鹿踊の群舞などが繰り広げられている。祭りの主役というべき山車は、大きな人形を中心に据えた盛岡流の流れをくんでいるが、飾り付けや運行作法は花巻まつりの山車に似ている。

○石鳥谷まつり（市指定無形民俗文化財）指定年月日　平成１７年１２月２６日

明治３０年代に始められ、南部流風流山車としては南限となっている。山車中央の前後に歌舞伎の名場面や歴史上の人物を主題とした人形が置かれ、上に松・桜・藤・楓、周囲に波・しぶきの飾りが付く。山車の前側に小太鼓、後側（見返し）に大太鼓を乗せ、これらを打ち鳴らしながら運行するものであり、祭りでは、熊野神社の神輿渡御の後、御神楽や鹿踊などの行列に続き、町内の各組の製作による華やかな山車が見られる。

○おおはさま宿場の雛まつり

開催日　２月中旬～３月３日ごろ

大迫町は、かつて三陸と盛岡を結ぶ街道の宿場町として栄え、江戸時代の享保雛や次郎左衛門雛、古今雛など代々受け継がれた貴重な雛人形が数多く残されている。

昔「おひなさん、おみせってくなんせ」と言って子供たちが家々の雛人形を見て歩いたそうだが、そんな風習を今に復活させたのが「宿場の雛まつり」である。

大迫交流活性化センターをメイン会場とし、町内の商店などに歴史雛から現代雛までいろいろなお雛様が飾られている。

○上郷（かみごう）虫追い祭り

昔は、梅雨時になると全国どこの村でも、村民総出で虫追い祭りを行った。当日は、稲藁で作った藁人形に悪神・悪霊・害虫払いの祈願をこめ、のぼりを立て、笛や太鼓で囃したり踊ったりしながら村中を歩き回る。最後に村はずれでこの人形に火を付けてのぼり共々焼き払い、あるいは川に流したりして、悪神・悪霊・害虫を村外に追い出すことによって五穀豊穣、無病息災を祈願する行事である。この行事も、農薬や医療の発達などで次第に廃れてしまった。

石鳥谷町新堀の上郷地区では、旧暦６月１５日ごろに「農休日」を兼ねて行われ、戦後は昭和３５年（1960）ごろまで青年会を中心に続けられていた。一時中断したが、昭和４８年（1973）に復活し、「五穀豊穣」「交通安全」などと書いたのぼりや笹竹、わら人形などを手に太鼓や鉦、笛の音を響かせながら行われている。

かつては、石鳥谷町各地でこの行事がみられたが、現在ではほとんど消滅してしまった中で、新堀（にいぼり）の上郷地区に残されている貴重な民俗習慣であり、市指定無形民俗文化財となっている。

歴史を感じる文化財

国指定文化財（国宝）

くにしていぶんかざい　こくほう

○花巻市の国指定文化財

花巻市には、国・県・市が指定する指定文化財がある。これらの文化遺産は、すべて市民の財産であり、県民・国民的財産でもある。私たちはこれらを保護し、後世へ伝えていく必要がある。

文化財の種別は次のとおり「文化財保護法」第２条の分類に基づき、市内にある『国指定文化財』を紹介する。

種　別		名　称	所在地	指定年月
有	建造物	旧小原家住宅	市内東和町谷内	昭和 44 年 12 月

形文化財		伊藤家住宅	市内東和町田瀬	昭和 51 年２月
		毘沙門堂	市内東和町北成島	平成２年９月
	美術工芸品（彫刻）	木造毘沙門天立像	市内東和町北成島	大正９年８月
		木造伝吉祥天立像	市内東和町北成島	大正９年８月
		木造阿弥陀如来坐像	市内鍛治町	昭和４年４月
民俗文化財	有形民俗文化財	南部杜氏の酒造用具	石鳥谷歴史民俗資料館	昭和 57 年４月
	無形民俗文化財	早池峰神楽 岳神楽 大償神楽	市内大迫町内川目岳 市内大迫町内川目大償	昭和 51 年５月 【ユネスコ無形文化遺産登録 平成 21 年９月】
記念物	名勝	イーハトーブの風景地 釜淵の滝 イギリス海岸 五輪峠	市内湯本地内台川 市内似内、小舟渡 市内東和町田瀬	平成１７年３月 平成１８年７月 平成１７年３月
	天然記念物	カズクリ自生地	市内東和町石鳩岡	昭和２年４月
		花輪堤ハナショウブ群落	市内西宮野目	昭和１０年４月
	特別天然記念物	早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落	市内大迫町、遠野市、宮古市	昭和３年２月

■旧小原家住宅

南部曲屋の農家で、１８世紀中ごろの建築と推定されている。直屋（すごや）から曲屋に改造したもので、普通の曲屋よりも小さく突き出した「うまや」の形から、曲屋の発生過程を知る重要な建築物と考えられている。盛岡藩（南部藩）で推奨された馬飼育のための住宅形態である。

■伊藤家住宅

直屋の農家で、１８世紀前半の建築と推定されている。１９世紀中ごろに「うまや」が加えられて南部曲屋の形となった。最も小規模な曲屋で、盛岡藩最南端の地域にある農家としても貴重な建築物であり、指定後に当初の直屋形式として復元された。

■木造阿弥陀如来坐像

元禄年間（1688～1704）、商人の清水甚兵衛・佐兵衛父子が発願して京都から請来した仏像で勝行院如来堂の本尊である。鎌倉時代の作だが、台座と光背は後補のもの。江戸時代、西念（さいねん）という僧が現在の場所に念仏堂を開いたのが勝行院の始まりといわれている。

協力(敬称略)
(一財)花巻高村光太郎記念会
㈱エーデルワイン
南部杜氏伝承館
花巻市観光課
花巻市文化財課
花巻市博物館
花巻新渡戸記念館
宮沢賢治記念館
萬鉄五郎記念美術館
花巻おもてなし観光ガイドの会

＝ あ　と　が　き ＝

どっどど　どどうど　どどうど　どどう
青いくるみも吹きとばせ　すっぱいかりんも吹きとばせ　『あいつは風の又三郎だぞ。』
「はなまき通検定」の参考書として編集したこの往来物（テキスト）は、皆さんの花巻の知識度を高めることと検定意欲の盛り上げに役立ったでしょうか？
既刊のテキストに新たに追加した内容もあるが、十分なものであるならば幸せである。
この往来物を基に検定問題作成班は新鮮な問題や難問（？）作成に向かっていく。
皆さんは、ジブンヲカンジョウニ入レズニ　ヨクミキキシワカリ
どっどど　どどうどと解答して欲しい。
・・・